彦根市埋蔵文化財調査報告 第5集

# 市立小中学校増改築工事に伴う
# 発掘調査概要報告書

## ═══ 下岡部西遺跡・極楽寺遺跡・四ツ目遺跡 ═══

昭和58年3月

彦根市教育委員会

# 序

琵琶湖東岸中央部に湖岸線を長辺とする平行四辺形の形で位置する彦根市は，当然のことながら琵琶湖の消長と共に歴史的時間を過ごしてまいりました。白砂青松の城下町でありました彦根市の風景も近代化の波によって徐々にではありますが変りつつある現状です。

当教育委員会で埋蔵文化財の発掘調査を直接執行事業として実施いたしまして３年になります。彦根市内の各学校につきましても，老朽化や児童生徒数の増加等による増改築時に事前の発掘調査を実施してまいりました。本年度は，こうした小中学校の増改築事業の必要となった事前発掘調査を４遺跡実施しましたが，このうちプールの改築に伴って発掘調査をしました福満遺跡につきましては調査期間の関係から来年度に報告することとしまして，下岡部西，極楽寺，四ツ目の各遺跡の概要報告書を刊行する運びとなりました。

文末ではございますが，調査にご理解とご協力を賜りました関係者の皆様にお礼を申し上げるしだいであります。

昭和58年３月

彦根市教育委員会
教育長　河　原　保　男

# 例　　言

1. 本書は，市立小中学校増改築工事に伴う埋蔵文化財包蔵地の事前発掘調査の概要報告書である。
2. 本書記載の調査地の地番は下記の通りである。

下岡部西遺跡

滋賀県彦根市下岡部町 597 番地

極楽寺遺跡

滋賀県彦根市極楽寺町 118 番地

四ツ目遺跡

滋賀県彦根市鳥居本町 788 番地

3. 調査は，彦根市教育委員会が調査主体となり実施し，発掘調査事業の事務は彦根市教育委員会社会教育課が担当した。
4. 調査は昭和 57 年度事業として実施した。
5. 調査は彦根市教育委員会技師・本田修平が担当し，多くの方々のご協力を得た。

# 下岡部西遺跡発掘調査報告

## 1. 位置と環境

今回発掘調査を実施した下岡部西遺跡は，彦根市下岡部町597番地である。調査地は，稲枝北小学校体育館北側にあたり，昭和55年度に遺物の出土した浄化槽の約20m北側の地点である。

彦富町から甲崎町にかけての集落の並びは，旧愛知川の流路を示す旧愛知川自然堤防上に位置するものと考えられる。稲枝北小学校は，この集落の並びより東側約150mの所にあり，地理的には旧愛知川の後背湿地に立地していると考えられる。

愛知川から荒神山にかけての稲枝地区は，彦根市内でも比較的遺跡の知られている地域である。昭和55年度滋賀県教育委員会発行の「滋賀県遺跡目録」によると，その主な遺跡は，弥生時代のものが4遺跡・古墳時代が5遺跡・奈良時代から平安時代が6遺跡・中世8遺跡・時代不明のものが2遺跡となる。

弥生時代の遺跡は，愛知川と宇曽川間の両河川が形成した沖積地の微高地に立地していると考えられる。発掘調査を実施したこの時代の遺跡は，稲枝東小学校南側に位置している稲部遺跡である。発掘調査の結果，集落周辺の低湿地に形成された包含層が確認され，その主な出土遺物は弥生時代後期から古墳時代前期にかけての土器であった。

古墳時代の集落跡と考えられる遺跡は，前述した稲部遺跡の他に上岡部遺跡や金田遺跡等でこの時代の遺物の出土が知られており，その立地から集落跡と考えられる。また，古墳は後期古墳が知られており，荒神山に総数25基の荒神山古墳群が上げられ，他には，1基ごとを分散した形で平野部に存在していたと言われる。

奈良時代から平安時代の遺跡は，その大半が寺院跡であり，実際に古瓦の出土が知られている所の他に伝承地が上げられる。これ等の遺跡のうち白鳳時代から奈良時代前期にかけての古瓦を出土している遺跡は屋中寺廃寺（上岡部A・

下岡部遺跡）・普光寺廃寺が上げられる。この他には，行基開山の伝承を持つ延寿寺遺跡等の古寺が上げられているが，その詳細は不明である。

中世以降は，城館跡が知られているが，遺跡の内容については不明である。

以上が稲枝地区の主要な遺跡であるが，当遺跡に近接して位置する上岡部A・B・下岡部遺跡は，弥生時代から奈良時代に至る遺跡であり，長期にわたり安定した地形であることがうかがえる。このことは，荒神山古墳群の存在と合せて考えるなら，古代のこの地域における一つの中心地であったことが予想される。

## 2. 調査に至る経過

彦根市は，稲枝北小学校の校舎が老朽化したため，全面改築の計画をたて，昭和55年度事業として実施した。この事業のなかで体育館の北側の浄化槽の掘削時に土師器等遺物の出土を見た。

稲枝北小学校付近は，屋中寺廃寺等の遺跡が存在し，稲枝地区でも注目される地域の一つであったが，当地はこの時点まで遺跡の存在は知られていなかった。この遺物の出土で付近に集落跡の存在が予想される箇所が増した。

遺物発見の経緯は，工事関係者より浄化槽設置のため掘削していたところ土器が発見されたとの通報を受けたことに始まる。通報者より土器の提供を受けた結果，平安時代と考えられる土師器の坏であることから，文化財保護法第57条の6第1項に基づき彦根市長名で埋蔵文化財発見通知を文化庁長官宛で提出した。これと同時に，主管の教育委員会総務課と協議し工事を一時中止して現地調査を実施したが，この時点で，すでに包含層の掘削は終っており，周辺に排土が盛り上げられていた。この排土の中に土師器，須恵器等遺物の小片が認められた。土質は，黒褐色砂質土で植物遺体の多く混じる層で，琵琶湖周辺部の低湿地でよく見られる包含層と同様なものであり，この層が包含層であると考えられた。以上のような状態であり，詳細な確認はできず，今後の問題として残された。

その後，稲枝北小学校の生徒数増加による校舎の増築を計画し，昭和57年

度事業として実施することとなった。この事業実施に伴い，彦根市長より昭和57年5月19日付けで 文化財保護法第57条の3第1項の規定に基づく埋蔵文化財発掘通知の提出があり，同時に当教育委員会に発掘調査の依頼があった。

当教育委員会では，調査依頼に基づき発掘調査の計画をたて，昭和57年5月27日付け 彦教委社第448号で 埋蔵文化財発掘調査通知を提出し，7月1日から現地調査に入り8月13日に終了した。

## 3．発掘調査の方法および調査結果

今回の校舎増築予定地は，昭和55年度の校舎改築時に遺物の発見された浄化槽の北西約20mの所に位置し，廊下と1教室分約100m²である。このうち廊下部分は現在の教室，下水等と隣接するために，調査対象から除き教室部分の予定地にトレンチを設定した。トレンチは，ほぼ方形を成していたが，下方の土層が粘土および砂層で湧水が激しく壁面が崩れるために階段状にしか調査ができなかった。このため，最終的には20m²ぐらいの面積になった。

発掘調査は，重機にて学校用地造成のための盛り土を取ることから始めた。この盛り土は20cm前後の厚さがあり，この下が部分的に厚さが異なるが平均して40cm前後であった。この面の西隅で旧水田の水路と考えられる緑青色の粘土が認められた。第3層は鉄・マンガン等の沈着した床土であり，第4層は黄褐色粘質土層となり，最高で80cmの厚さがあった。この第3層・4層には古墳時代後期から中世に至る遺物を含んでおり，土質も第3層は第4層の黄褐色粘質土に鉄・マンガン等が沈着した土層であると考えられるが，第3層に包含されていた遺物の時期は相対的に若干新しくなる。このことより考えれば，上層の旧水田はかなり新しい時代に開田されたものであることがうかがえる。

第5層は褐黄色砂層が厚い所で10cm～15cmの層をなしていたが，遺物の包含は確認できなかった。第6層は灰色粘土層であり約60cmの厚さで堆積しており，古墳時代後期の遺物を包含していた。しかし遺物の量は極少量であった。第7層は黒灰色粘土層で，第6層の粘土層に有機物が混じったものと考えられる。この第7層を掘り込む時点で，湧水・トレンチ壁面の崩壊等で階段状

にしか掘り下げられなかった。最終的なトレンチは，約２ｍ×７ｍの大きさになった。第７層は，50 cm ほどしか掘り下げられなかったが，この範囲での遺物の出土は確認できなかった。

## 4．ま　と　め

昭和 55 年の 稲枝北小学校改築に伴う不時発見時の現地調査は，すでに浄化槽の掘削は終っており，また壁面はシートパイルのために断面の観察も不可能であった。ただ，かろうじて浄化槽掘削時の排土が，シートパイルの廻りにあり，この土の中から土師器等の小片を採取した。この排土は，植物遺体が多量に混じった黒褐色シルト質のもので，この層が包含層になっているものと考えられた。今回の調査地は，この浄化槽より約 20 m 西側の地点であることからこの包含層の性格が確認できるものと期待されたが，結果的には今回の発掘調査でこの層を確認することはできなかった。

今回の調査結果から見れば，今回の調査地点はかなり強い湿地であったと考えられ，この状態は平安時代頃まで続き，中世以降，微高地化が進んだものと思われる。このような地理的環境から，今回の調査地点は，集落周辺に形成された包含層であると考えられる。

# 極楽寺遺跡発掘調査報告

## 1．位置と環境

極楽寺遺跡の今回の調査地点は，滋賀県彦根市極楽寺町118番地である。極楽寺町は国鉄東海道本線西側に広がる集落であり，当該地は集落東側に国鉄線を越えて張り出し森堂町と西葛籠町の間に延び，国道8号線西側約200mの所に位置する市立河瀬小学校の校地である。犬上川南岸の地域で現在知られている遺跡の数は少ないが，当遺跡北約1kmに位置する堀町横地遺跡は昭和55年度に発掘調査を実施した。調査報告書はまだであるが，その概要を記せば，犬上川自然堤防上に形成された弥生時代から平安時代前期におよぶ複合遺跡であることが確認されている。遺構は，弥生時代後期の溝・古墳時代の住居跡・後期古墳，また奈良時代後期から平安時代前期の巾約3m・深さ約2mの大溝・時期不明の焼土壙等が確認されている。この後期古墳は墳丘が削平され周溝だけが痕跡として残っているもので，その最大のものは直径約20mであった。犬上川から宇曽川の間での現在知られている古墳は，西葛籠町葛籠遺跡・南川瀬町南川瀬遺跡・千尋町桃山遺跡の3基が知られているだけであるが，他に横地遺跡の後期古墳のように，墳丘が削平され痕跡を地表下に止めているものが多数あると考えられる。他の遺跡を昭和55年度滋賀県教育委員会発行の「滋賀県遺跡目録」から上げると，滋賀県教育委員会が圃場整備に伴う事前調査を実施した妙楽寺遺跡は弥生時代後半から平安時代に至る複合遺跡であると言われ，歴史時代以降のものは寺院跡と言われる甘呂町甘呂遺跡・蓮台寺町蓮台寺遺跡があり，城跡としては堀町堀遺跡が知られている。

また，川瀬馬場町の県立高等学校建設用地では，県教育委員会が埋蔵文化財確認調査を実施し，遺跡であることが確認された。この川瀬馬場遺跡は，昭和57年度に事前発掘調査が実施され，弥生時代中期から古墳時代前期にかけての遺跡であると言われる。

このように犬上川から宇曽川にかけての地域は，現在知られている遺跡の数

こそ少ないが，今後新たに確認される遺跡が増加するものと考えられる。

## 2．調査に至る経過と調査方法

市立河瀬小学校の周辺は従来遺跡の知られていない空白地帯であったが，昭和56年度に運動場東側の田で須恵器の散布が確認されていた。

彦根市は市立河瀬小学校校舎の老朽化による校舎の全面改築計画を立て，昭和57年度事業として第1期工事を実施することになった。この事業実施計画に伴い，彦根市は文化財保護法に基づく極楽寺遺跡の発掘通知および発掘調査依頼を当教育委員会に提出した。これを受けて，当教育委員会は極楽寺遺跡の発掘調査を計画し，昭和57年度事業として発掘調査を実施するに至った。

極楽寺遺跡は，須恵器の散布地であることが確認されていただけで，その範囲・性格等は不明であったため，調査計画は遺跡の範囲を確認することを主な調査目的とし，包含層・遺構の有無を確認することに主眼とした。また，校舎改築は現在使用している校舎を撤去しながら新校舎建設を進める計画であるため，まず改築予定地で校舎のない本館北側の校庭にトレンチを設定することにした。

## 3．調 査 結 果

発掘調査は，前記の計画で着手した。本館北側校庭の新校舎予定地は約350㎡の広さがあり，ここに4m×15mのトレンチを2本設定した。

土層は，表面が学校用地のための整地がしてあり，砕石・山土等が平均40cmの厚さで盛り土されていた。第2層は旧水田の耕作土層で約30cmの厚さであった。第3層は5～10cmの厚さで鉄・マンガンが沈着した床土で褐黄色粘質土層であり，第4層は黄褐色粘質土層で最も厚い所で60cmあり，東側に向ってレンズ状に薄くなる堆積を示す。この第3層と第4層は土質から見れば同質のものであり，第4層の土が床土化したと考えられる。第5層は暗褐色砂礫層であり，トレンチ東端を重機で深掘りしたが，約2.5m下までほぼ同様の砂礫層を確認している。遺物は1トレンチ第4層黄褐色粘質土層から土師器長

甕片が出土している。長甕は２個体あり，焼成の良いものとやや不良なものがあるが，２個体ともに，ローリングはほとんど受けていないことより見て遠い所よりの流入とは考えられない。この遺物の他には伴出遺物がなかった。また２トレンチ東端で直径30cmほどの整理穴が掘り込まれており，江戸時代のものと考えられる遺物が若干入っていた。

以上，今回の発掘調査で確認できた結果を記入してきたが，運動場東側田での須恵器片の散布を合わせて考えれば，この付近に古墳時代後期以降の集落跡が存在する可能性が大であり，今後の調査の課題として残されている。

# 四ツ目遺跡発掘調査報告

## 1．位置と環境

四ツ目遺跡の今回の発掘調査地の地番は，彦根市鳥居本町788番地である。

鳥居本町は旧坂田郡に属していたが，昭和27年に彦根市に編入したもので，石田三成の居城として知られている佐和山城跡のある佐和山等が松原内湖を抱え込むように北に向って張り出し磯山に至る小山丘で旧彦根市と区切られていた。旧中仙道は鳥居本町が所在する谷に沿って北に抜け，現在でも，東海道新幹線・名神高速道路・国道8号線等の主要幹線が通っており交通の要所となっている。

現在知られているこの地区の遺跡は，最も古いもので，古墳時代後期の古墳と言われる石塚遺跡であり，ここからは経塚も発見されているが詳細は不明である。鳥居本町から小野町にかけての山林には寺院跡が3遺跡所在し，佐和山から北方に伸びる物生山北端の山麓には遺物の散布地が2ケ所存在するが，これ等も詳細は不明である。また宮田町には，式内社山田神社がある。

この地域には現在小野川・矢倉川が北流し米原町へと流れ込んでいるが，本来は入江内湖に注いでいたと考えられる。この入江内湖は，現在干拓されて水田になっているが，干拓工事中に多くの縄文時代後期から平安時代に至る遺物が採取されている。矢倉川は，現在物生山と磯山との間を通り西流して琵琶湖に注いでいるが，この部分は矢倉川遺跡で，昭和46年度の河川改修工事に伴い発掘調査が県教育委員会の手によって実施され，縄文時代から弥生時代にかけての遺物の出土が確認されている。

## 2．調査に至る経過と方法

彦根市は，市立鳥居本中学校体育館の老朽化に伴い場所を移して改築する計画で，昭和57年度事業として工事を実施する予定を立てた。このため，文化財保護法に基づき埋蔵文化財発掘調査通知および埋蔵文化財発掘調査依頼を当

教育委員会に提出した。

当教育委員会は，この埋蔵文化財発掘調査依頼を受けて，当教育委員会が調査主体となり，事前調査を実施する計画を立てた。

四ッ目遺跡は，昭和55年度滋賀県教育委員会発行の「滋賀県遺跡目録」に集落跡として記載されている遺跡であるが，その詳細は不明であった。また，鳥居本中学校北側の田には，須恵器の散布が見られていたが，遺跡の範囲を確認するには至っていなかった。

体育館改築予定地は，半分テニスコートにかかっており，まず現在使用されていない残り半分にトレンチを入れ遺構・包含層等の有無を確認することを主目的とした。この結果で遺跡であることが確認できたら，残り半分のテニスコート部分にもトレンチを入れ遺跡の性格を調査する計画で発掘調査を実施した。また，調査地には重機が入れないため，まず手掘りで調査を進め，トレンチを拡大する必要が生じた場合は重機を入れ調査のスピードアップを計ることとした。トレンチは5m×12mの大きさで設定した。

現地調査は，昭和57年8月13日から実施し，8月31日に埋め戻しを終了した。

## 3．調 査 結 果

土層は，表土が中学校建設のための盛土層で，第2層は約15cmの厚さの旧耕作土層となる。第3層は褐灰色粘質土層で，この層が床土になっていたものと考えられる。第4層は基本的には礫の混じった層であるが，数次にわたって堆積したものと考えられ，礫の混じらない部分や礫の大きさで4層に分けられた。土質は茶褐色粘質土であった。第5層は褐灰色礫層でトレンチ東側半分では第5層の礫層はなくなり，第6層は茶灰色粘質土層となる。これは，当地の東側が山丘になる関係で地山になるものと考えられる。遺物は，第3層から出土しており，その主なものは土師器であるが，古墳時代から近世におよぶもので，量的にも極少量しか出土しなかった。土師器はローリングを受けたものか保存状態は良くない。第4層以下は遺物が確認できなかった。

以上の調査結果から見れば，調査地一帯はかなり激しい土砂の堆積状況を示している。矢倉川は，現調査地東側の小丘陵の後を通っているが，調査地の土砂の堆積状況から考えれば，調査地周辺は矢倉川の氾濫原であったことが考えられる。この堆積作用は時間的に長く続き，第3層の遺物出土から見れば，この地域の水田開発は，かなり新しい時代になると考えられる。また第3層の遺物は流入したものと考えられ，四ツ目遺跡は旧中仙道に近い所に存在すると思われる。このことは今後の課題であると考える。

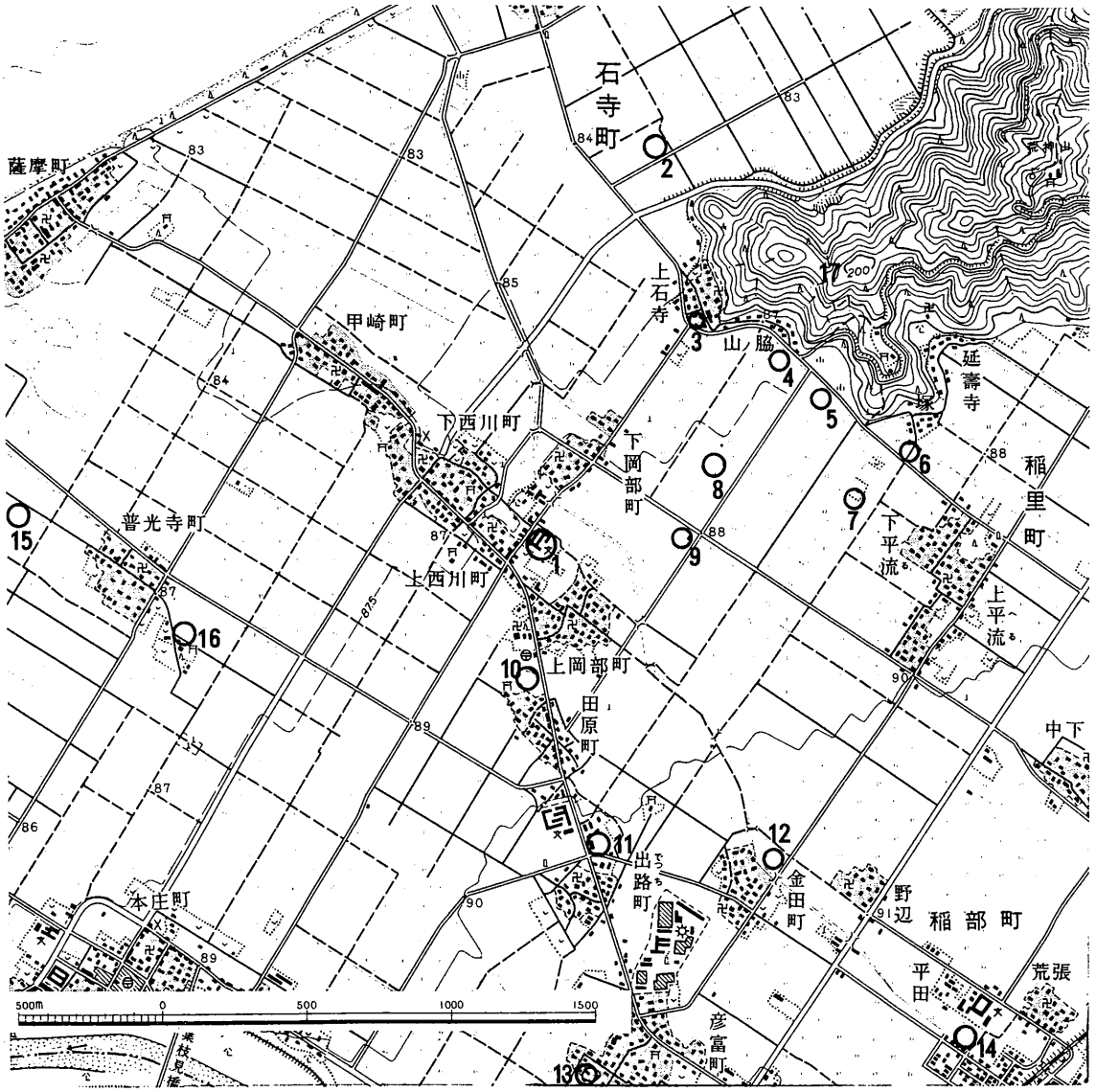
# 出土土器観察表

| 土器番号 | 器形 | 種類 | 法量 | 形態 | 調整 | 胎土 | 色調 | 焼成 | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 1 | 長甕 | 土師器 | 口径 23.7 cm | ○口縁部は内彎しながら開き，端部にやや面を作る。<br>○体部は肩が張らず長く作る。 | ○口縁部は内外面ともに横ナデ調整。<br>○体部は内外面ともにハケ調整 | 良 | 淡赤褐色 | 硬 | 極楽寺遺跡第3層 |
| 2 | 長甕 | 土師器 | 口径 24.7 cm | ○口縁部は内彎しながら開き，端部を丸くおさめる。<br>○体部は肩が張らず長く作る。 | ○口縁部は内外面ともに横ナデ調整。<br>○体部は内外面ともにハケ調整 | 良 | 淡白黄色 | 軟 | 極楽寺遺跡第3層 |
| 3 | 甕 | 土師器 | 口径 13.3 cm<br>器高 14.0 cm | ○口縁部は「く」の字状に外反し開き，端部を丸くおさめる。<br>○体部はやや偏平な球形で，底部は丸底である。 | ○口縁部は内外面ともに横ナデ調整<br>○体部上半は内外面ともにハケ調整<br>○体部下半は外面ヘラ削り調整で内面はナデ調整 | 良（1mm前後の砂粒を含む） | 淡灰褐色 | やや硬 | 下岡部西遺跡第3層 |
| 4 | 鉢 | 土師器 | 口径 16.9 cm<br>器高 7.5 cm | ○口縁部は立ち上がり端部を丸くおさめる。<br>○体部は丸く作り底部を丸底に作る。 | ○口縁部は内外面ともに横ナデ調整<br>○体部は外面ヘラ削り，内面ハケ調整 | 良 | 淡灰黄色 | 硬 | 下岡部西遺跡第6層 |
| 5 | 鉢 | 土師器 | 口径 14.0 cm | ○口縁部は内彎して立ち上がり端部を丸くおさめる。<br>○体部は丸く作られている。 | ○口縁部は内外面ともに横ナデ調整<br>○体部はやや磨滅しているが，外面ヘラ削り，内面ハケ調整 | 良 | 淡灰黄色 | やや硬 | 下岡部西遺跡第6層 |
| 6 | 把手 | 土師器 | | ○平面三角形を成している。<br>○端部は欠けている。 | ○体部は内外面ハケ調整<br>○把手は張り付けで，一部ハケ調整をほどこす。 | 良（1mm以下の砂粒を含む） | 淡褐黄色 | 軟 | 下岡部西遺跡第3層 |

| 土器番号 | 器形 | 種類 | 法量 | 形態 | 調整 | 胎土 | 色調 | 焼成 | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 7 | 把手 | 土師器 | | ○平面三角形を成すと思われる。 | ○体部は内外面ハケ調整。<br>○把手は張り付けで成形。 | 良<br>（1㎜以下の砂粒を含む） | 淡褐黄色 | 軟 | 下岡部西遺跡第4層 |
| 8 | 皿 | 土師器 | 口径<br>15.0 cm | ○口縁部は弱く外彎して開き，端部を丸くおさめる。 | ○口縁部・体部ともに横ナデ調整。<br>○体部内面に暗文が入る。 | 精良 | 乳赤褐色 | やや軟 | 下岡部西遺跡第3層 |
| 9 | 皿 | 土師器 | 口径<br>10.7 cm | ○口縁部は弱く外彎して開き，端部を丸くおさめる。 | ○口縁部・体部ともに横ナデ調整。 | 精良 | 乳白黄色 | やや硬 | 下岡部西遺跡第6層 |
| 10 | 皿 | 土師器 | 口径<br>7.9 cm | ○口縁部は外反して開き，端部を丸くおさめる。 | ○口縁部と底部内面横ナデ調整 | 精良 | 乳褐色 | やや軟 | 下岡部西遺跡第3層 |
| 11 | 皿 | 土師器 | 口径<br>10.5 cm | ○口縁部は外反して開き，端部を丸くおさめる。 | ○口縁部と底部内面横ナデ調整 | 精良 | 乳赤褐色 | やや硬 | 下岡部西遺跡第3層 |
| 12<br>13 | 土錐<br>土錐 | 土師器<br>土師器 | 全長2.8 cm<br>3.9 cm | | | 精良<br>精良 | 淡白褐色<br>暗灰褐色 | やや軟<br>やや軟 | 下岡部西遺跡第3層 |
| 14 | 甕 | 須恵器 | 口径<br>21.2 cm | ○口縁部は頸部との境で屈曲し弱く外傾しながら開き，端部を丸くおさめる。<br>○頸部はしまり，体部は肩が張る。 | ○口縁部・頸部ともにロクロナデ調整。<br>○体部は内外面ともに叩き調整 | 精良 | 淡青灰色 | 硬 | 下岡部西遺跡第4層 |
| 15 | 甕 | 須恵器 | 口径<br>18.3 cm | ○口縁部は外斜して開き，端部内面を弱く肥厚させ端部に面を作る。 | ○内外面ともにロクロナデ調整 | 精良<br>（1㎜以下の砂粒） | 淡灰色<br>（自然釉がかかる） | 硬 | 下岡部西遺跡第4層 |
| 16 | 甕 | 灰釉 | 口径<br>21.4 cm | ○口縁部は屈曲して立ち上がり端部は強いナデで外方にやや引き出す。 | ○内外面ともにロクロナデ調整 | 精良 | 淡灰色 | 硬 | 下岡部西遺跡排土中表採 |

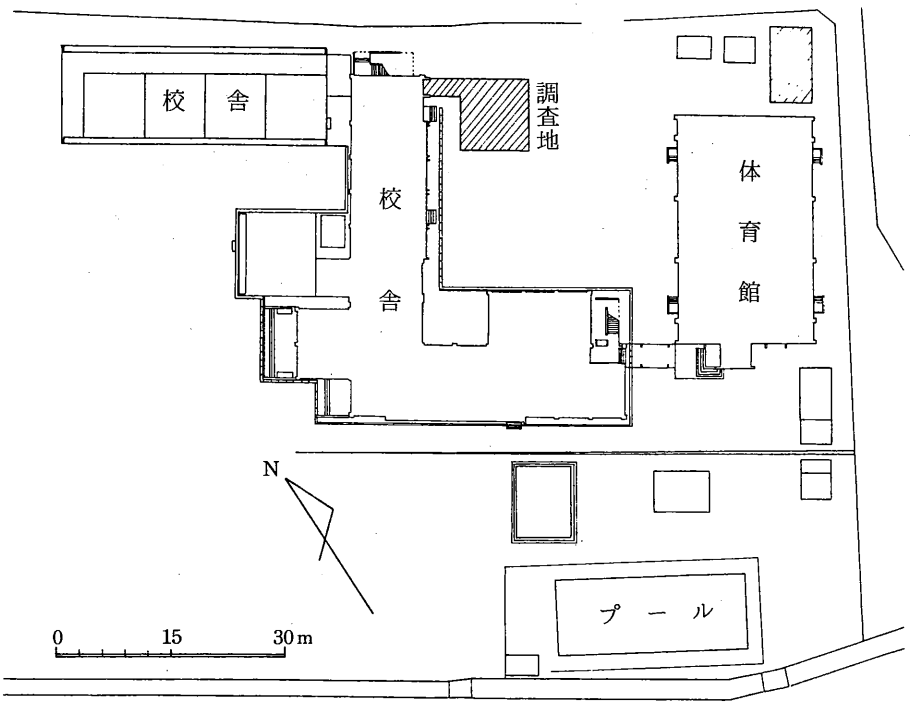
| | | | | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 17 | 坏蓋 | 須恵器 | 口径 11.3 cm | ○ドーム状の天井部から口縁部がやや外方に開き，端部を丸くおさめる。 | ○口縁部・体部ロクロナデ調整<br>○天井部外面不調整。 | 良 | 淡青灰色 | 硬 | 下岡部西遺跡第3層 |
| 18 | 坏蓋 | 須恵器 | 口径 11.9 cm | ○ドーム状の天井部から口縁部がやや外方に開き，端部を丸くおさめる。 | ○口縁部・体部ロクロナデ調整<br>○天井部外面不調整。 | 良 | 淡灰色 | やや軟 | 下岡部西遺跡第3層 |
| 19 | 坏蓋 | 須恵器 | 口径 11.4 cm | ○ドーム状の天井部から口縁部との境に弱い稜を作り，掛部は内傾ぎみに作られ，端部を丸くおさめる。 | ○口縁部・体部ロクロナデ調整<br>○天井部外面不調整。 | 良 | 灰色 | やや硬 | 下岡部西遺跡第4層 |
| 20 | 坏身 | 須恵器 | 口径 11.3 cm | ○受部は内傾して低く作られ，端部を丸くおさめる。<br>○体部は内彎して開く。 | ○受部・坏部ともにロクロナデ調整。<br>○坏底部外面は不調整。 | 良（2㎜前後の砂粒を含む） | 淡灰色 | 硬 | 下岡部西遺跡第4層 |
| 21 | 坏身 | 須恵器 | 口径 9.4 cm | ○受部は内傾して低く作られ，端部を丸くおさめる。<br>○体部は外傾して開く。 | ○受部・坏部ともにロクロナデ調整。<br>○坏底部外面は不調整。 | 良（1㎜以下の砂粒を若干含む） | 淡白灰色 | やや軟 | 下岡部西遺跡第6層 |
| 22 | 坏身 | 須恵器 | 口径 10.3 cm | ○底部と体部の境に稜が入り，受部は強く内傾して短く作られ，端部を丸くおさめる。 | ○受部・坏部ともにロクロナデ調整。 | 良（1㎜以下の砂粒を若干含む） | 淡灰色（1部自然釉をかぶる） | 硬 | 下岡部西遺跡第4層 |
| 23 | 坏蓋 | 須恵器 | 口径 28.7 cm | ○天井部は偏平に作られ，口縁部にかけては内彎ぎみに伸びる。<br>○掛部は断面三角形を成す。 | ○天井部外面はヘラ削り後ロクロナデ調整。<br>○他は内外面ともにロクロナデ調整。 | 良 | 白灰色（1部自然釉がかかる） | 硬 | 下岡部西遺跡第3層 |
| 24 | 坏蓋 | 須恵器 | 口径 14.6 cm | ○天井部は偏平なドーム状をなし，口縁部にかけては内彎ぎみに伸びる。<br>○掛部は下方に伸び端部は丸く作られる。 | ○天井部外面はヘラ削り後ロクロナデ調整。<br>○他は内外面ともにロクロナデ調整。 | 良 | 淡灰色 | 硬 | 下岡部西遺跡第3層 |

| 土器番号 | 器形 | 種類 | 法量 | 形態 | 調整 | 胎土 | 色調 | 焼成 | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 25 | 坏蓋 | 須恵器 | | ○天井部は中央部が弱く凹み，偏平なつまみが作られる。 | ○天井部外面はヘラ削りの後ロクロナデ調整で，内面はロクロナデ調整。<br>○つまみは張り付け。 | 良 | 青灰色 | 硬 | 下岡部西遺跡第3層 |
| 26 | 坏蓋 | 須恵器 | | ○弱いドーム形を成す天井部の中央に偏平なつまみがつく。 | ○天井部はヘラ削りの後にロクロナデ調整で，内面はロクロナデ調整。<br>○つまみは張り付け。 | 精良 | 灰色 | 硬 | 下岡部西遺跡第4層 |
| 27 | 坏身 | 須恵器 | 底部径 9.0 cm | ○平底の底部から体部は弱く内彎しながら開く。 | ○体部内外面および底部内面ロクロナデ調整。<br>○底部外面はヘラ切りの後ナデ調整。 | 精良 | 淡灰色 | 硬 | 下岡部西遺跡第3層 |
| 28 | 埦 | 灰釉陶器 | 高台径 8.2 cm | ○高台は外方に張ってふんばる。<br>○内面は0.5㎜ほどの厚さで灰釉がかかっている。 | ○体部ロクロナデ調整。<br>○高台は張り付け。 | 精良 | 白灰色 | 硬 | 下岡部西遺跡第3層 |
| 29 | 鉢 | 中世陶器 | 高台径 16.9 cm | ○断面台形の高台から体部は直線的に開く。 | ○体部外面ヘラ削りで，内面ロクロナデ調整。<br>○高貸は張り付け。 | 良（砂粒等若干混じる） | 淡灰色 | 硬 | 下岡部西遺跡第3層 |
| 30 | 坏蓋 | 須恵器 | 口径 11.7 cm | ○偏平なドーム状をなす天井部から口縁部は横方向に伸び，偏平な掛部が作られている。 | ○内外面ロクロナデ調整。 | 精良 | 淡青灰色 | 硬 | 四ツ目遺跡第5層 |
| 31 | 坏身 | 須恵器 | 底部径 10.9 cm | ○高台は断面台形をなす。 | ○内外面ロクロナデ調整。<br>○高台は張り付け。 | 精良 | 青灰色 | 硬 | 四ツ目遺跡第5層 |
| 32 | 坏身 | 須恵器 | 底部径 8.8 cm | ○高台は外方にふんばる。<br>○底部は厚く作られる。 | ○内外面ロクロナデ調整。<br>○高台は張り付け。 | 良 | 暗灰色 | 硬 | 鳥居本中学校北側田表採 |

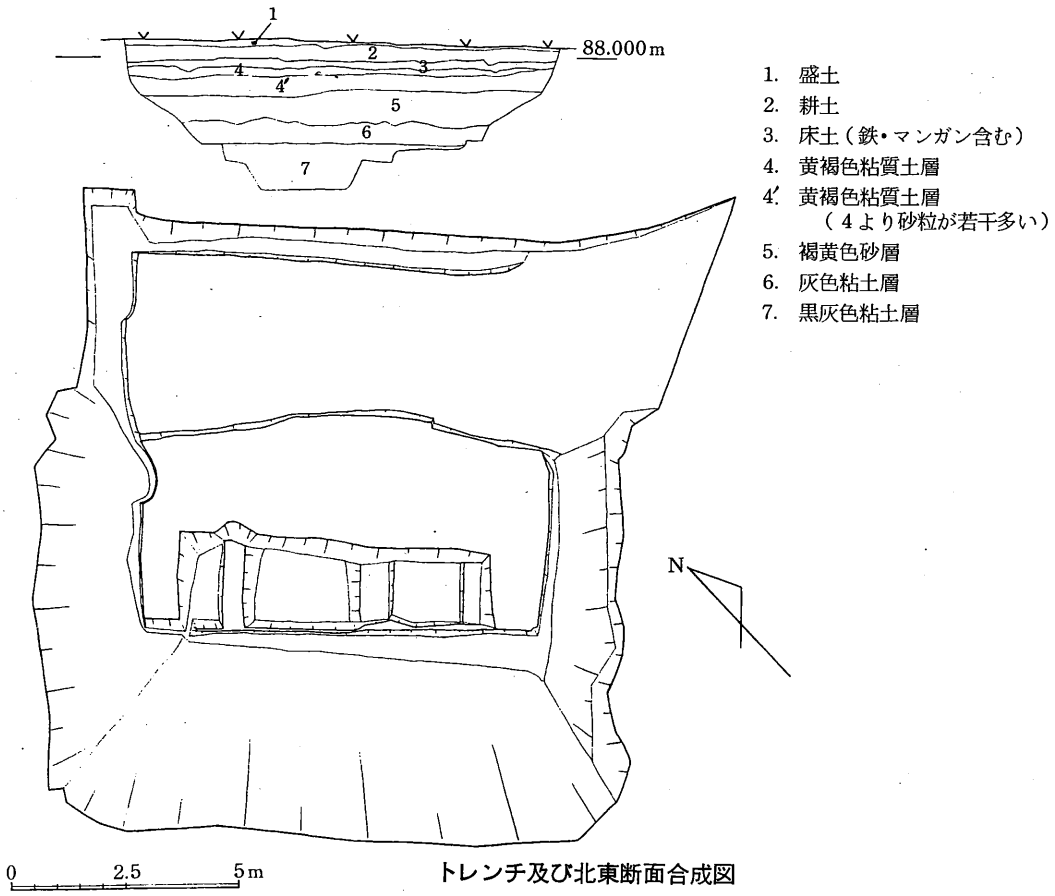



1. 下岡部西遺跡（今回調査地）
2. 曽根沼西遺跡
3. 白塚遺跡
4. 宝石寺遺跡
5. 岩神遺跡
6. 稲里遺跡
7. 下岡部遺跡
8. 上岡部B遺跡
9. 上岡部A遺跡
10. 綾堂遺跡
11. 出路遺跡
12. 金田遺跡
13. 狐塚遺跡
14. 稲部遺跡
15. 普光寺北遺跡
16. 普光寺遺跡
17. 荒神山古墳群

図版1　　下岡部西遺跡位置図

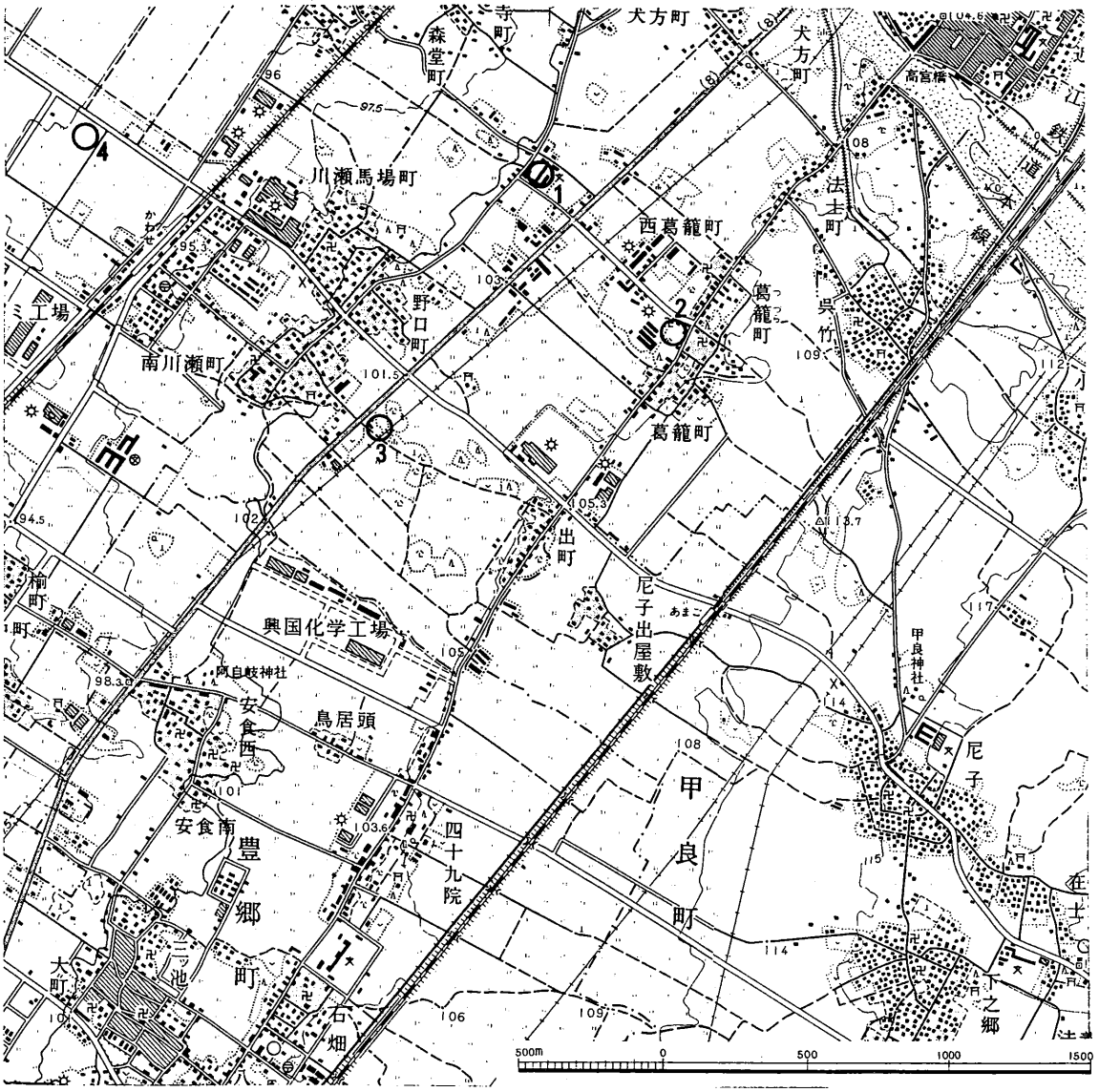



調査位置図



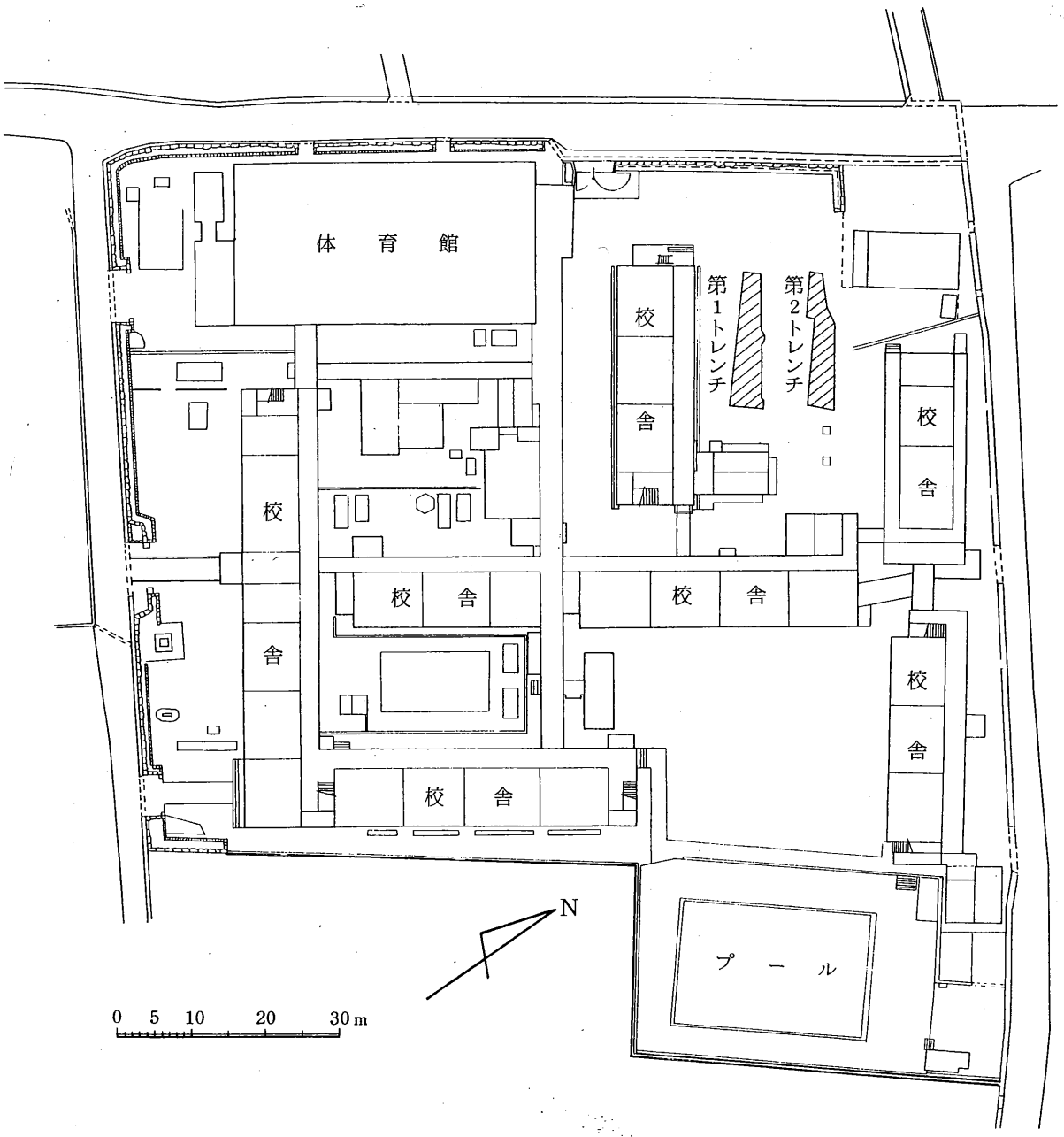

トレンチ及び北東断面合成図

図版２　　下岡部西遺跡調査位置図，トレンチ図



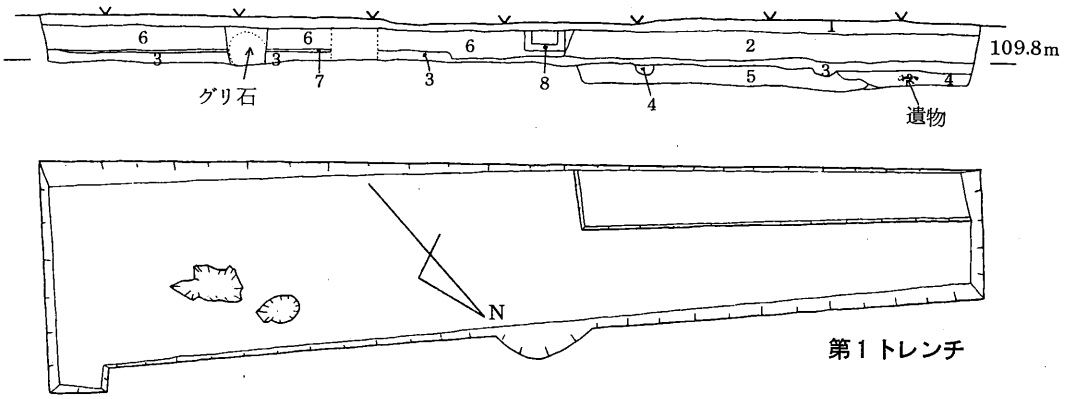

1. 極楽寺遺跡（今回調査地）
2. 葛籠遺跡
3. 南川瀬遺跡
4. 川瀬馬場遺跡

図版３　　極楽寺遺跡位置図



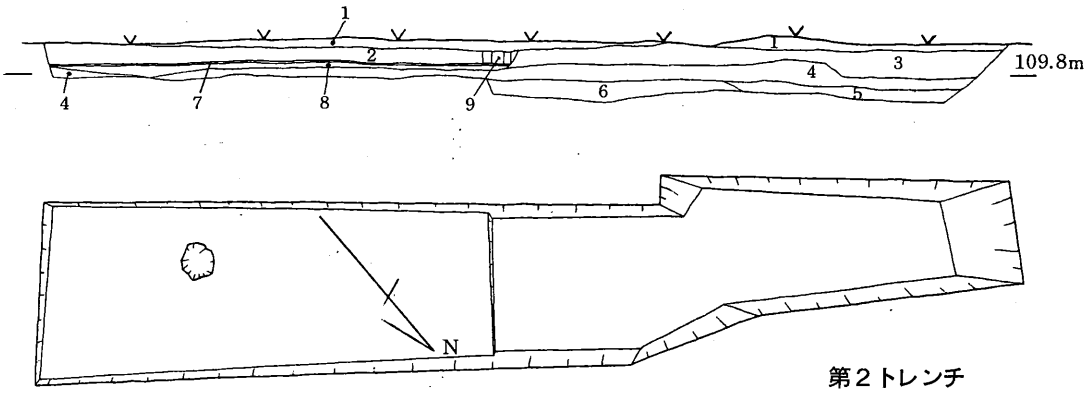

図版4　極楽寺遺跡調査位置図

1. 盛土（黒灰色礫層）
2. 盛土（灰白色砂礫層）
3. 濃灰色粘質土（耕作土）
4. 黒褐色粘質土（包含層）
5. 黄褐色砂礫層
6. 耕作土混じりの盛土層
7. 黒灰色粘質土層
8. コンクリートの溝

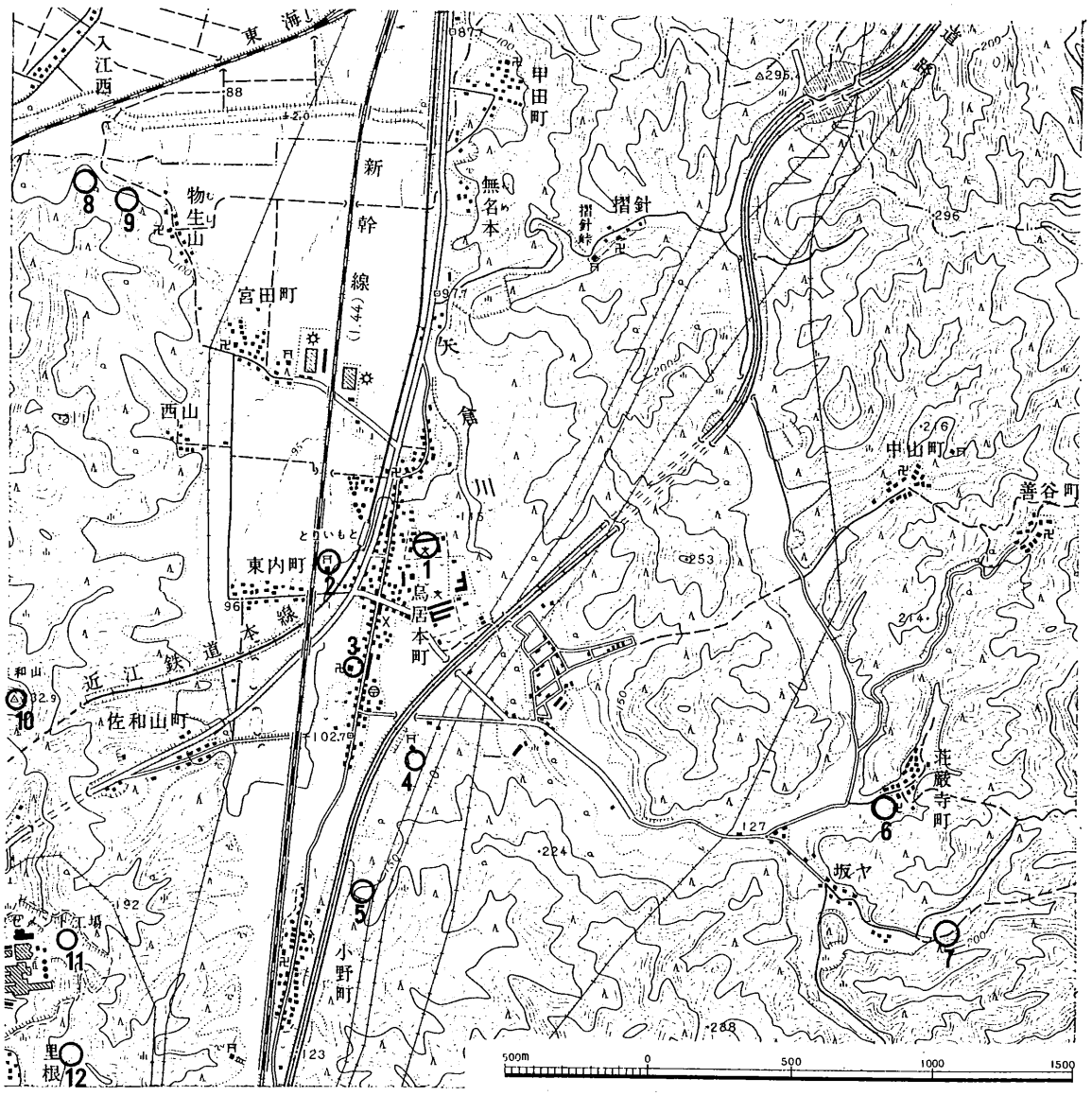



0　2.5　5m

1. 盛土（黄褐色砂質土）
2. 盛土（灰白色砂礫層）
3. 耕作土
4. 濃灰色粘質土層
5. 黒褐色粘質土（包含層）
6. 黄褐色砂礫層
7. コンクリートの床
8. 暗灰色礫混じり土層
9. コンクリートの溝

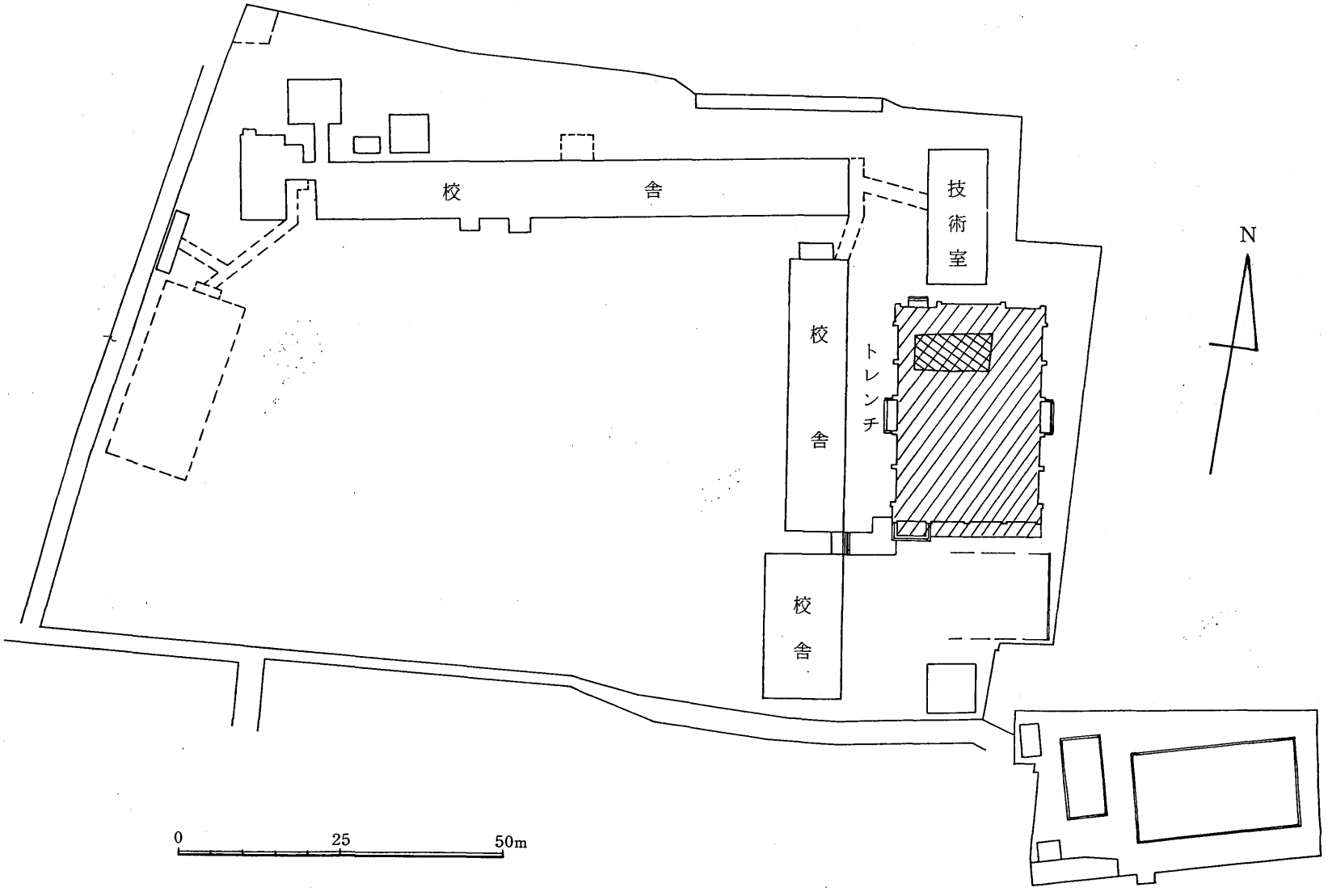



図版５　極楽寺遺跡トレンチ図及び断面図

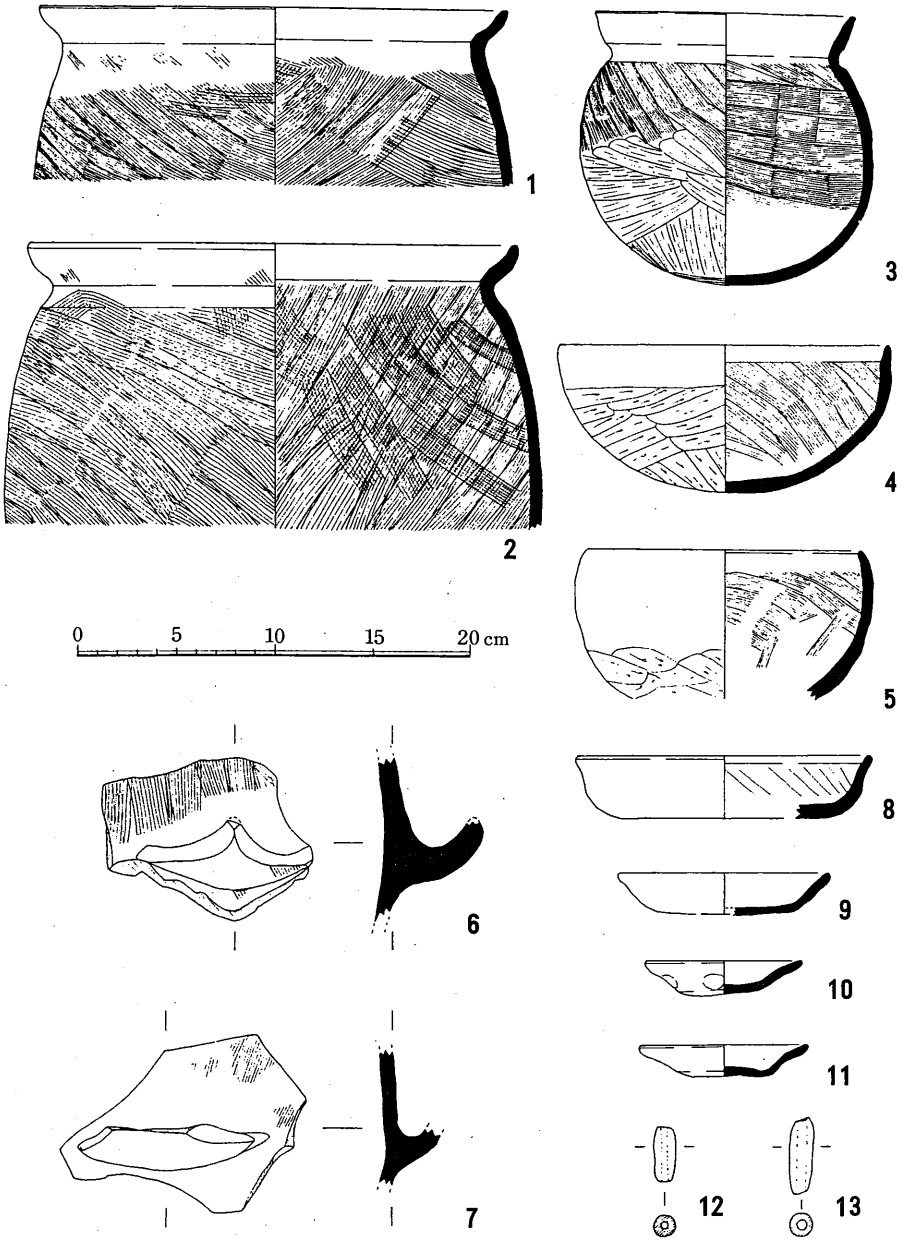



1. 四ツ目遺跡（今回調査地）
2. 石塚遺跡
3. 泉山泉寺遺跡
4. 本正寺遺跡
5. 観音寺遺跡
6. 荘厳寺遺跡
7. 仏生寺川中遺跡
8. 梅塚遺跡
9. 物生山西遺跡
10. 佐和山遺跡
11. 姫袋遺跡
12. 東山遺跡

図版６　　四ツ目遺跡位置図

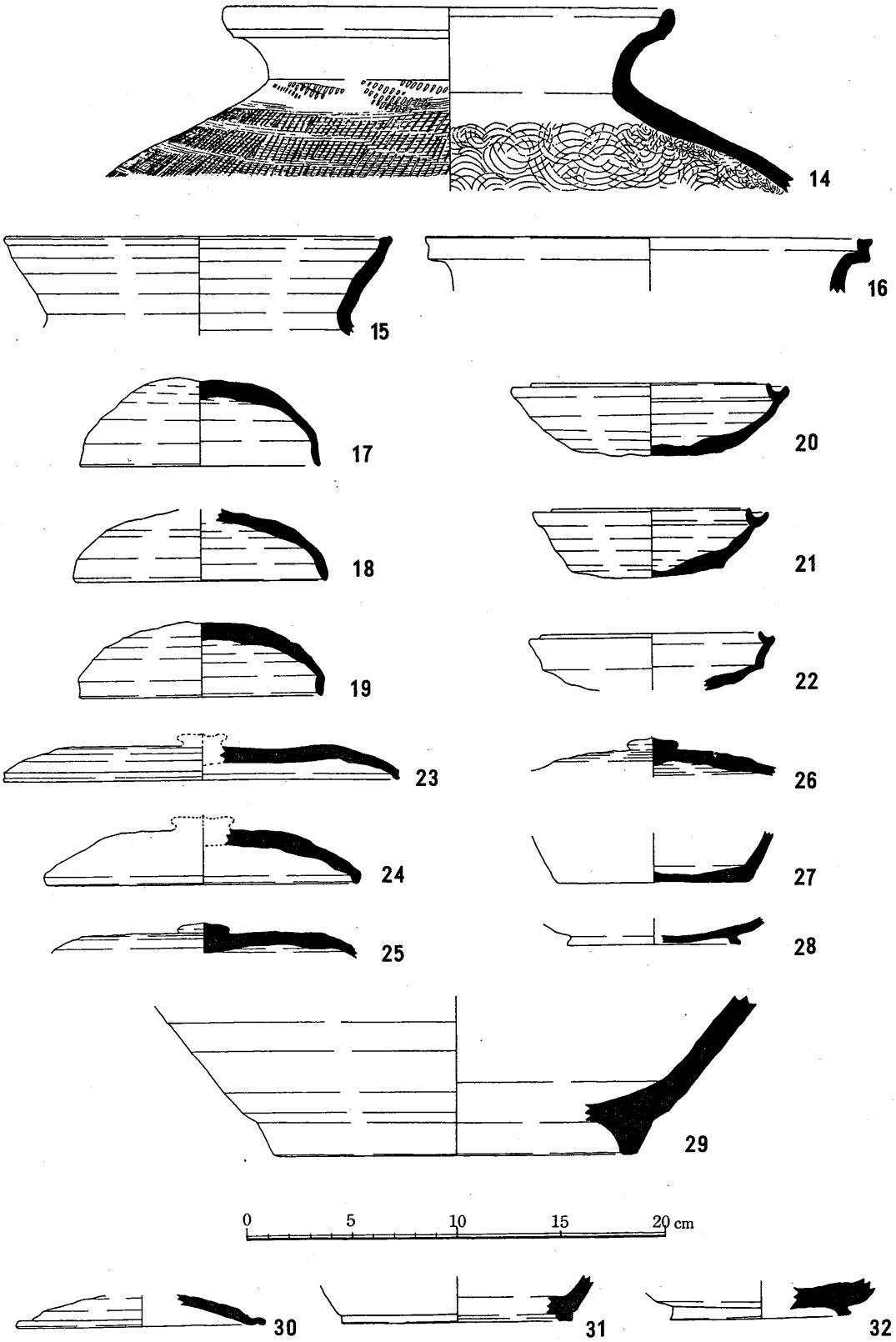



図版７　　四ツ目遺跡調査位置図



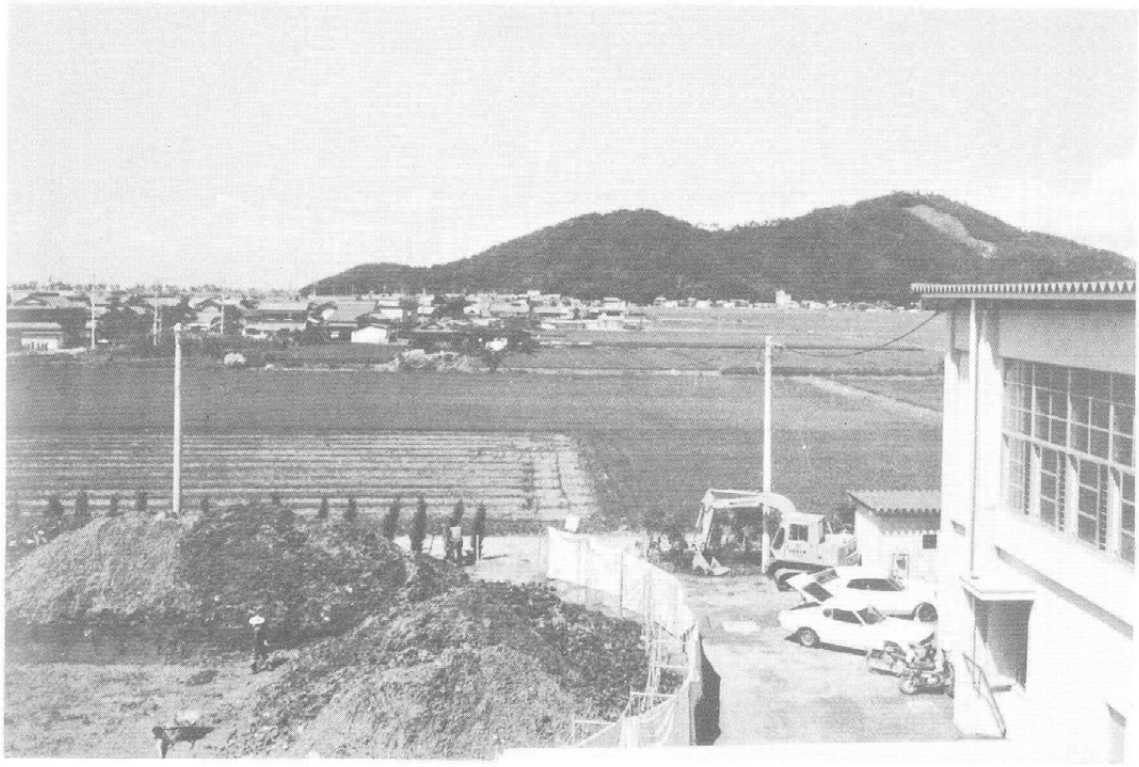

図版８　　出土遺物実測図

1，2　　極楽寺遺跡出土
3～13　下岡部西遺跡出土




図版９　出土遺物実測図

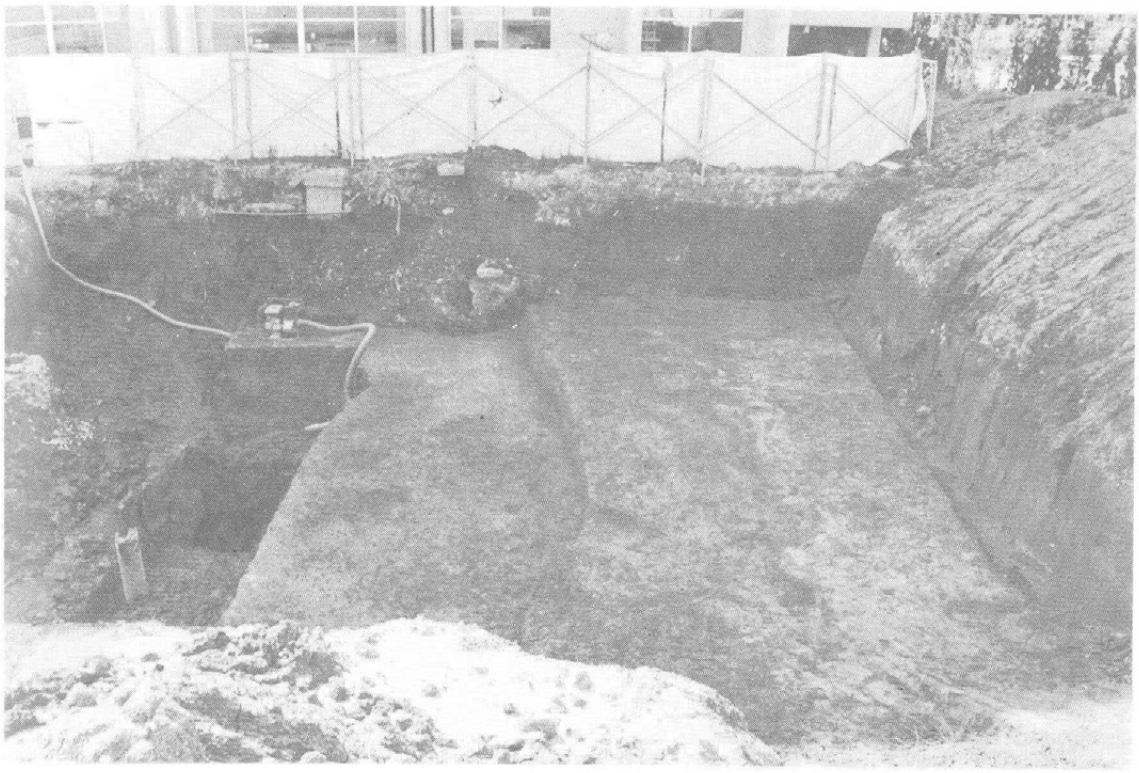
14～29　下岡部西遺跡出土
30～32　四ツ目遺跡出土



調査地より荒神山を望む

調 査 地 全 景

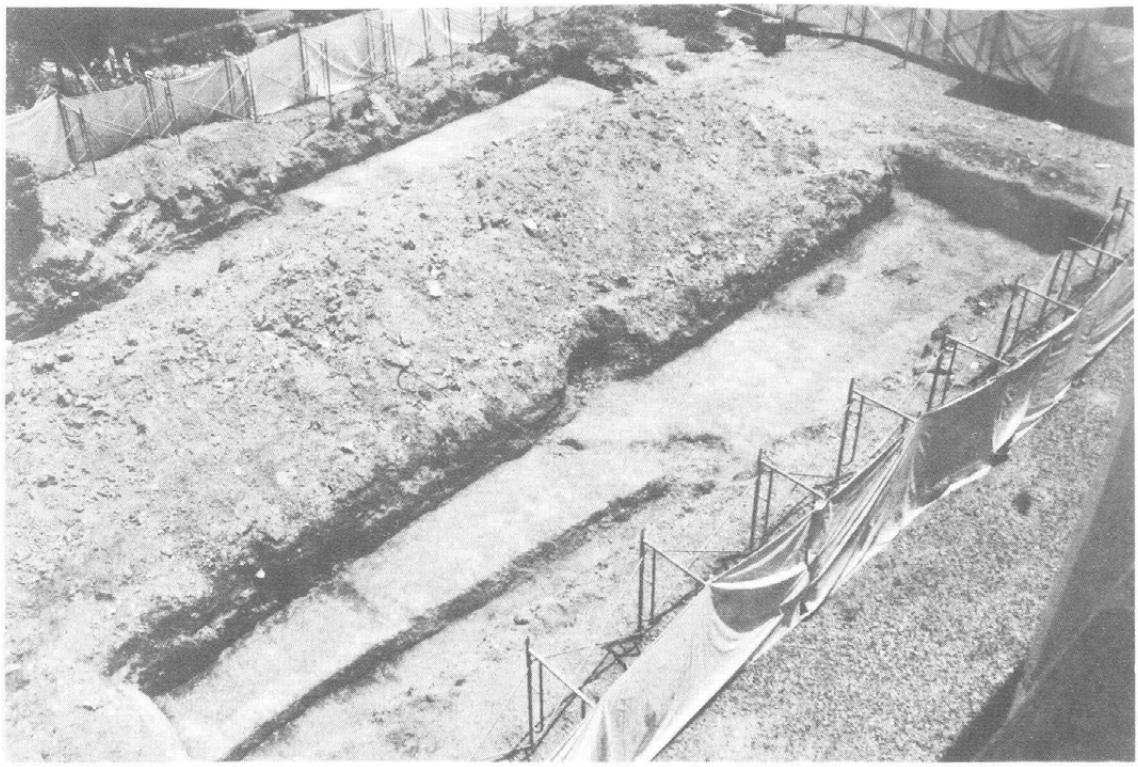
写真図版1　　下 岡 部 西 遺 跡



トレンチ全景（南東側から）

深掘地区断面

写真図版２　　下岡部西遺跡

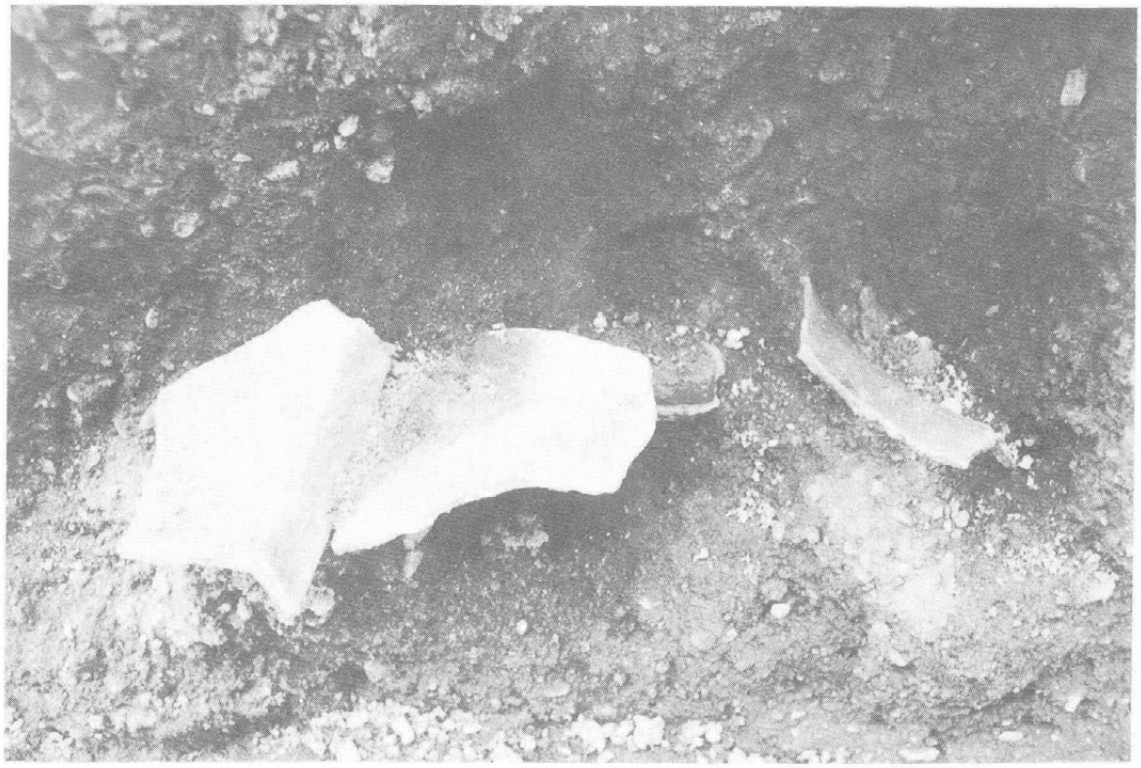


調　査　地　全　景

第２トレンチ全景（東側から）

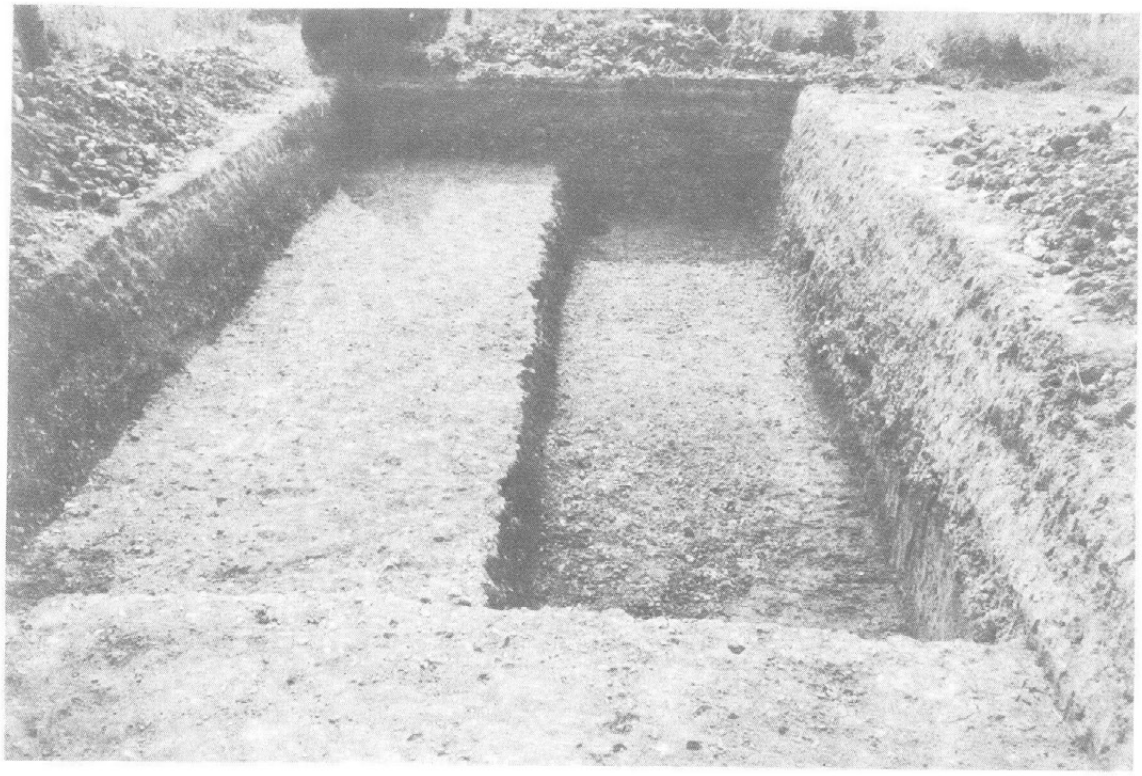
写真図版３　　極　楽　寺　遺　跡

第１トレンチ全景（東側から）



第１トレンチ出土状況

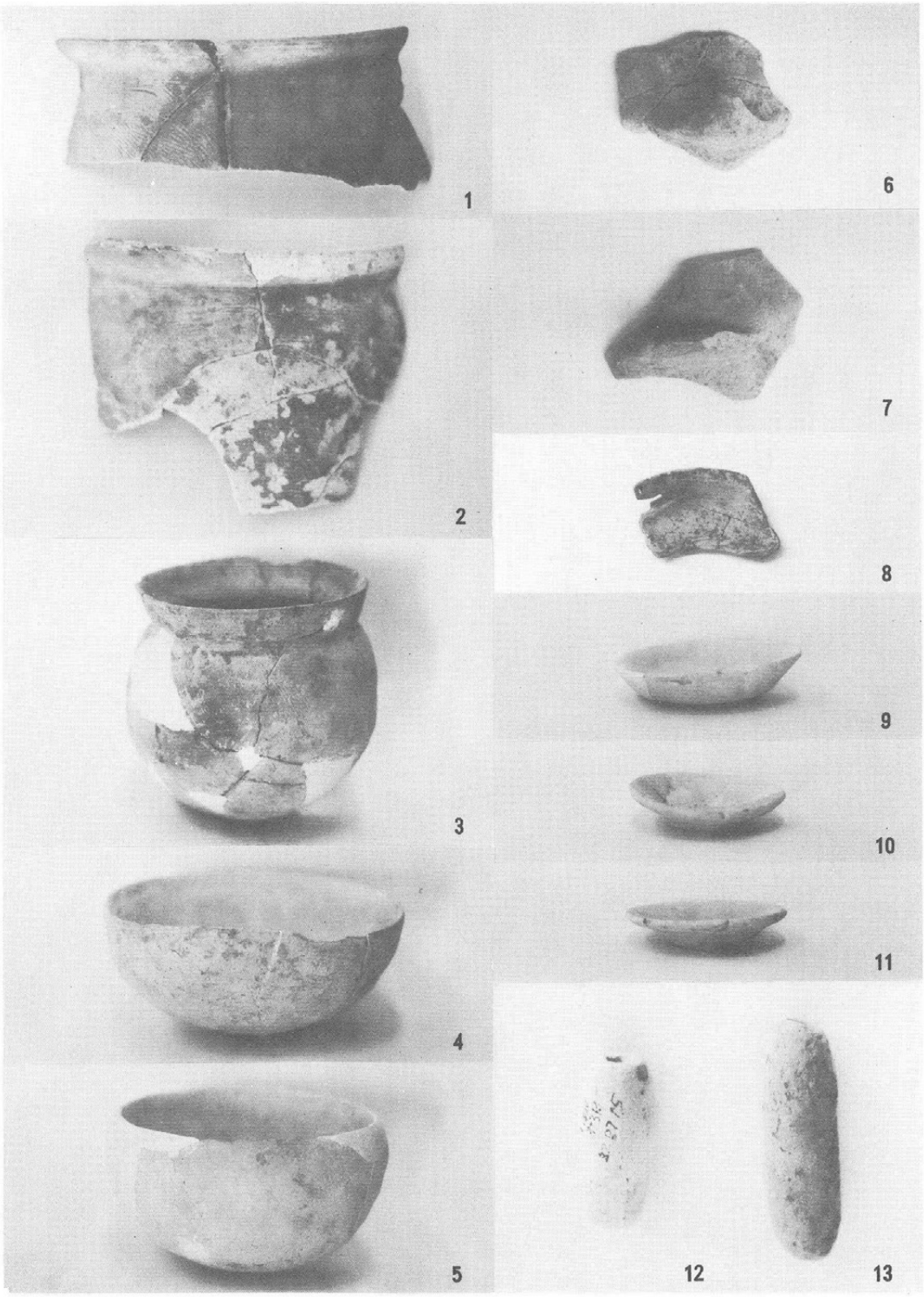
写真図版４　　極楽寺遺跡



トレンチ全景（東側から）

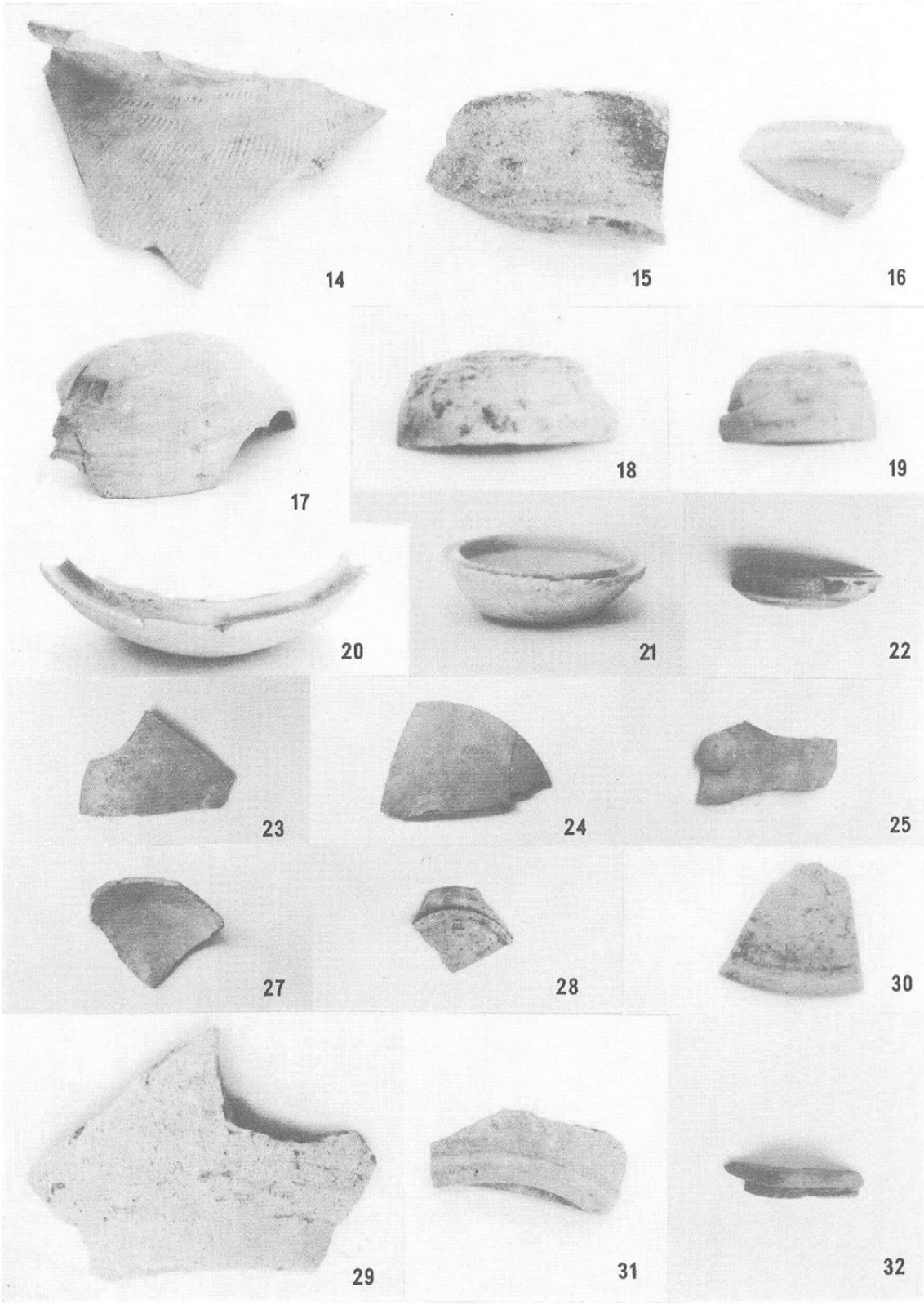
出土遺物

写真図版５　　四ツ目遺跡




写真図版 6

1, 2　極楽寺遺跡出土
3～13　下岡部西遺跡出土




写真図版 7

14 ～ 29　下岡部西遺跡出土
30 ～ 32　四ツ目遺跡出土